

10年・20年先を見据えた 自治会活動について

静岡県富士宮市 青木平区自治会 区長 武井 信夫



あしたの日本を創る協会では、令和7年1月に「自治会町内会講座」を開催しました。2団体からの事例発表を紹介します。文中の数字等は講座開催時点のものになりますのでご承知願います。

(文責・事務局)

■ 青木平区自治会とは

静岡県富士宮市は、富士山の町である。世界遺産となった富士山の構成資産である白糸の滝や、ダイヤモンド富士を撮影できる田貫湖などがあり、自然豊かな地域である。人口約12万6000人、世帯数は約6万世帯、区長会連合会が12区、単位自治会は125区ある。最も大きい行政区は、人口約6000人、世帯数約2700世帯(2025年1月時点)。行政区の中で、規模が大きいところと小さいところに差がある。

青木平区は小高い山の上にある。約40年前に宅地造成された新興住宅地で、戸建て住宅が100%である。人口約8000人、世帯数約400世帯。定住世帯数が349世帯、加入世帯数は251世帯。自治会加入率は71%(令和6年1月時点)。自然を求め

て都会から転居された方が多く、横浜から移られた方も多い。

私が区長になったのは7年前である。紙の自治会加入届を電子データ(Excel)にして、自治会加入世帯主の平均年齢を調べると63歳であった。新興住宅地の特徴として住民の年齢に偏りが生じており、近い将来高齢化が必ず大きな課題となることが予測されたため、移住者を増やすために取り組んだのがホームページの作成だ。ホームページ作成には、機材などのお金がかかる。市が移住定住事業を実施していたので、その補助金10万円を、ホームページのランニングコストの運営に充てた。そうして区の支出の負担を下げた。単なる自治会の紹介ページではなく、青木平に住んでみたいと思えるような情報を掲載し、県内外から若い世代の転入促進を図る通信ツールとして活用した。具体的には、景観、憩いの場所、保育園情報、美容関係の情報などを掲載。さらに、区民に対する情報提供として、回覧板や行事予定等を掲載した。また、空き家物件情報を併せて掲載した。

ホームページの編集委員は10人。うち女性が7人で、10代から80代まで、幅広い世代が編集に参加している。月1回、編集委員会を行っている。現在では、編集委員会をさらに発展させて、青木平区の行事の企画委員会

を受け持てるようにしている。編集委員の皆さんは、新しい行事への意見などを活発に出してくれ、自分たちで手配、仲間を集めている。

ホームページを開設してから7年になるが、アクセス数は約16万件、転入世帯数は41世帯となった。この間にコロナがあり、都会から地方へテレワークができるようになったことで、移り住む方が増えた。

■現在取り組んでいる地域課題

1つ目の地域課題として、空き家対策に取り組んでいる。第一に、空き家と売地の調査を進めた。さらに、空き家や利用されていない別荘の登記証明書を取得した。相続手続きがされていない物件が複数見つかり、所有者が分かるところには手紙を出し、売却もしくは賃貸などの処置を講じるよう協力要請している。さらに、「空き家を出さない対策」に取り組み、静岡県司法書士会、富士宮市役所建築住宅課、市内不動産会社の協力のもと、住宅の処分に関する勉強会を実施した。元気なうちに家を処分しようと思っても、手続きが大変である。住宅を売るためには、自分の住むところを確保しなければならないが、アパートも高齢者にはなかなか貸し出さ

ない。いろいろと大変であることが分かったので、早いうちに対策を、ということで取り組んでいる。

2つ目の地域課題として、高齢化に向けた居住環境の改善が挙げられる。第1に取り組んでいるのは、買い物支援だ。山の上にあるコンビニなどがないこの地域で、免許を返納した方の買い物は大変である。バスは通っているが本数は少ない。対策として、移動販売車の拡充を進め、現在、マックスバリュとウエルシア、とくし丸の3社が移動販売に來ている。第2の取り組みは、ゴミの収集だ。

青木平は丘陵地であるため、坂や階段が多く、ゴミ出しが大変であるため、高齢者のゴミ出し支援を行っている。シルバー人材センターと業務契約を結び、ゴミの収集作業を委託している。自治会はゴミ収集申込者の登録と集金を担っている。週1回2000円で実施し、現在、約10世帯が利用している。以前は、ボランティアでゴミを収集してくれる方がいたが、病気など何らかの理由で収集ができなくなってしまうこともある。人の善意だけに頼るのではなく、持続可能な取り組みができるよう、令和5年5月からこの事業を始めた。ビジネスモデルの1つになったのではないかと思う。また、2週にわたりゴミが出ていない場合は、緊急事態として、自治会に連絡が

来るようにしている。独居の方を見守る取り組みである。

3つ目の地域課題は、区内の公共インフラの整備である。まず取り組んだのが「アートのまちづくり」だ。枯れた大きな街路樹をただ切るのではなく、3人の作家さんにご協力いただき、一体3万円で、フクロウや熊などアート作品を制作した。

また、4年間かけて8か所ある階段に手すりを設置したり、見通しが悪いところを調べたりなどして、安全なまちづくりを進めている。

■地域づくり実現の具体策

青木平区のまちづくりコンセプトは4つある。1つ目は、「自然豊かで『きれいな住宅地』『住んでみたい』地区でありたい」（居住環境維持）。都会に住んでいるとわからないかもしれないが、山の中だと1年何もしなかったら草ぼうぼうになる。そのため、年4〜6回程度草刈りを行っている。最近は多くの方が協力してくれるようになった。

2つ目は、「若者が『楽しく安心して暮らせる』地区でありたい」（安全安心の町）。記憶に残る地区でありたいと考えている。最近では、コロナ前には毎年行っていた「夏まつり」

青木平区はこんな町・地域の実現を目指しています

青木平区の「町づくり」コンセプト 20年後もこんな青木平区であって欲しい

- ◆ 自然豊かで『きれいな住宅地』『住んでみたい』
地区でありたい (居住環境維持)
- ◆ 若者が『楽しく安心して暮らせる』
地区でありたい (安全安心の町)
- ◆ お年寄りが『生きいき、楽しく暮らせる』
地区でありたい (高齢者福祉の町)
- ◆ 『助け合い、協力し合える優しい人達』の
地区でありたい (住民コミュニケーション)



15/19

を「秋まつり」に変更した。熱中症リスクやまつり準備の負担軽減を図り、区民総出で楽しめるイベントとして復活させた。

3つ目は、「お年寄りが『生き生き、楽しく暮らせる』地区でありたい」(高齢者福祉の町)。寄り合い処に集まったり、スロートレー

ニングやグラウンドゴルフなど、高齢の方々は活発に楽しんでいる。また、「認知症サポート養成講座」を年に1回開催している。これまでは、認知症の人を助ける取り組みばかりやっていたが、認知症の早期発見、自己診断のため、元気な今のうちから認知症に対する知識をより多く入れておこうと考えた。認知症になると、今日の日付や出かけた場所などを忘れてしまうが、知識はなかなか抜けないはずだ。早期発見が重要だ。

4つ目は、「助け合い、協力し合える優しい人達」の地区でありたい(住民コミュニケーション)。月に1回、夜6時からお酒をみんな持つてきてカラオケをしている。区民以外の方にも来ていただいて、みんなで楽しく輪を広げるために実施している。

また、「活動の見える化」を行うため、ホームページだけではなく活動ニュースを発行している。また、2月には青木平区自治会活動報告会を企画している。役員だけが知っていたも、自治会区民には活動が伝わっていないということもあるため、広報活動というのは非常に重要だ。具体的には、行政に提出した要望書の内容とその進捗報告、回覧板やホームページによる広報、役員会議事録の回覧およびホームページへの掲載を行っている。さらに、定例総会資料や、「青木平くらしのガ

イド」を全戸配布およびホームページで公開している。

区費の使い道を明確にすることも必要だ。新年会や忘年会は相互の懇親を深める重要な取り組みだが適切な会計報告が求められる。また、酔ったとしても片付けを人に任せずみんなで片付けをするなど一つ一つ意識していくことが必要だ。

■ 私たちが考える自治会とは

自治会の主役は区民一人一人であり、自治会の役割は、命を守る活動を通して、安全で住みやすい環境づくりの実現を目指して活動し、その実現を目指すことだと考える。自治会はまちづくりの組織であるので、会費は、まちづくりのための協力金だ。どのような町を作るのか、言葉にすることが重要だ。まちづくりのプロセスは、課題を更新し、具体的な取り組みを事業計画として定めて、これを確実にやっていくという形を取っている。

なお、富士宮市区長会連合会では、「区長のための自治会運営のヒント集」を作成した。区長会で了承が得られたら、このヒント集を皆様にお送りすることができる。もし、この情報が必要であれば、ホームページを通じて私に連絡を頂けたらと思う。